

- はじめに「ニーズ」ありきという大原則
- 支援活動は時間軸に沿いつつも、地域の状況、子どもや家庭の状況等の変数によって決まる。
- (支援活動) = f (変数1, 変数2, 変数3...)
- 変数とは、そもそもの地域性、地域資源のつながり、子どもの生活環境、心の状態...等、「いま、ここで」起きている場面にある。

- “**子どもは本来、大きな力を持っている**”という前提(これは被災した方々や地域に向き合う場合も同様)に立つこと。
- 支援とは、そうした力(子ども自身が気づいていない力も含め)が**発揮される機会を提供すること**が役割と考えること。
- “**10年後のおとな**”へのプロセスは、自らの気づきを促すしかけが重要であり、自分自身や生活する地域への意識が高まるような体験に参画する場を提供すること。